

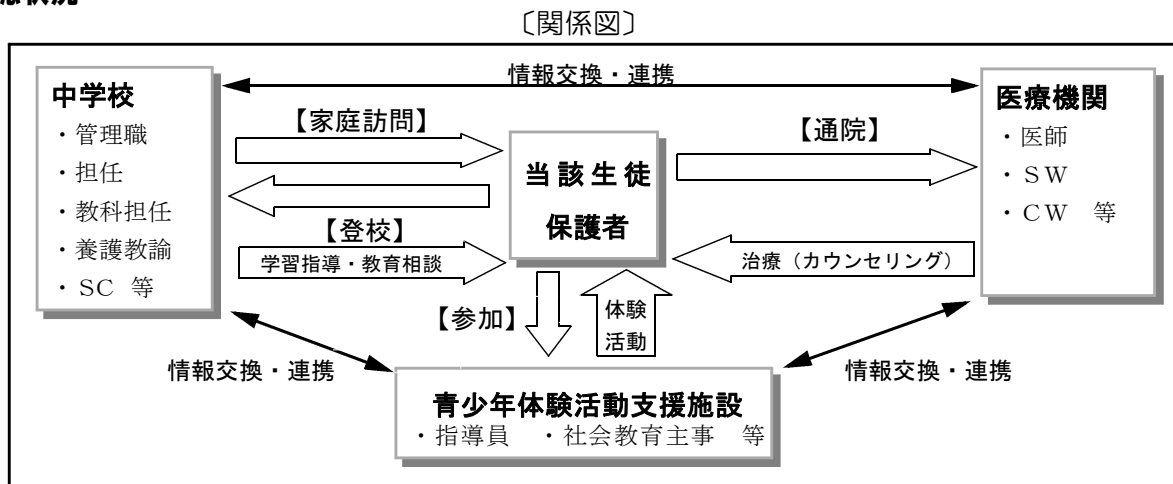
不登校児童生徒への対応事例 9（中学校第 2 学年男子）

～生活リズムの改善に向け医療機関等の関係機関と連携した対応～

問題の把握

当該生徒は、中学校入学時に保護者から購入してもらった携帯電話を使用したゲームやメールなどを深夜の時間帯に頻繁に行っていた。第 1 学年の 2 学期から朝に起きれないため遅刻が多くなり、3 学期には昼過ぎまで寝ているため欠席するようになった。第 2 学年になり、当該生徒の保護者が担任とスクールカウンセラーと相談し、医療機関の受診を通して、当該生徒の生活リズムの改善を通して不登校の解消に向けた取組を進めることとした。

対応状況



〔対応の経過〕

○ 4 ～ 5 月（医療機関の受診）

- ・当該生徒の深夜の携帯電話の使用による昼夜逆転の生活リズムの改善を図るため、当該生徒の保護者が中学校の担任・スクールカウンセラーと協議し、医療機関を受診することとした。
- ・保護者の了解を得て、中学校の管理職と養護教諭、スクールカウンセラーが医療機関にこれまでの当該生徒の指導に関する情報を提供した。
- ・当該生徒及び保護者が医療機関を受診し、生活リズムの改善に向けて、携帯電話の使用時間や時間帯等に関する家庭内のルールを設定するとともに、学校や学校外での様々な活動に参加することが大切であるとの助言を受けた。

○ 6 月～（生活リズム改善の取組）

- ・当該生徒及び保護者、担任、養護教諭、スクールカウンセラーで当該生徒の家庭での携帯電話の使用時間、時間帯、就寝時の置き場所等についてのルールを設定した。
- ・当該生徒が実際に体験活動の楽しさを味わうことができるよう、青少年体験活動支援施設のプログラムに参加することとし、当該生徒が主体的にプログラムに参加できるよう、保護者の了解を得て、担任が支援施設にこれまでの当該生徒の指導に関する情報を提供した。
- ・学校では当該生徒が登校した際に、学習活動以外に、当該生徒が他の人のために役立っていることを実感できる係活動等の場や機会を設けることとした。
- ・保護者の了解を得て、保護者と学校、青少年体験活動施設、医療機関で当該生徒の状況についての情報交換を図り、連携した取組を進めた。

○ 取組の成果

- ・2 学期以降、当該生徒の家庭での携帯電話の使用時間は減少し、昼夜逆転の生活はある程度改善されている。学校には時折遅刻は見られるが、欠席はなくなっている。

不登校の問題に対応するためのポイント

- ・児童生徒の社会的自立と進路実現を目指し、個に応じた指導方針と内容を検討すること。
- ・民間施設などの関係機関との連携のシステムを確立し、児童生徒への指導・支援についての情報交換と共通理解を図り、児童生徒に対する支援を計画的・効果的に行うこと。